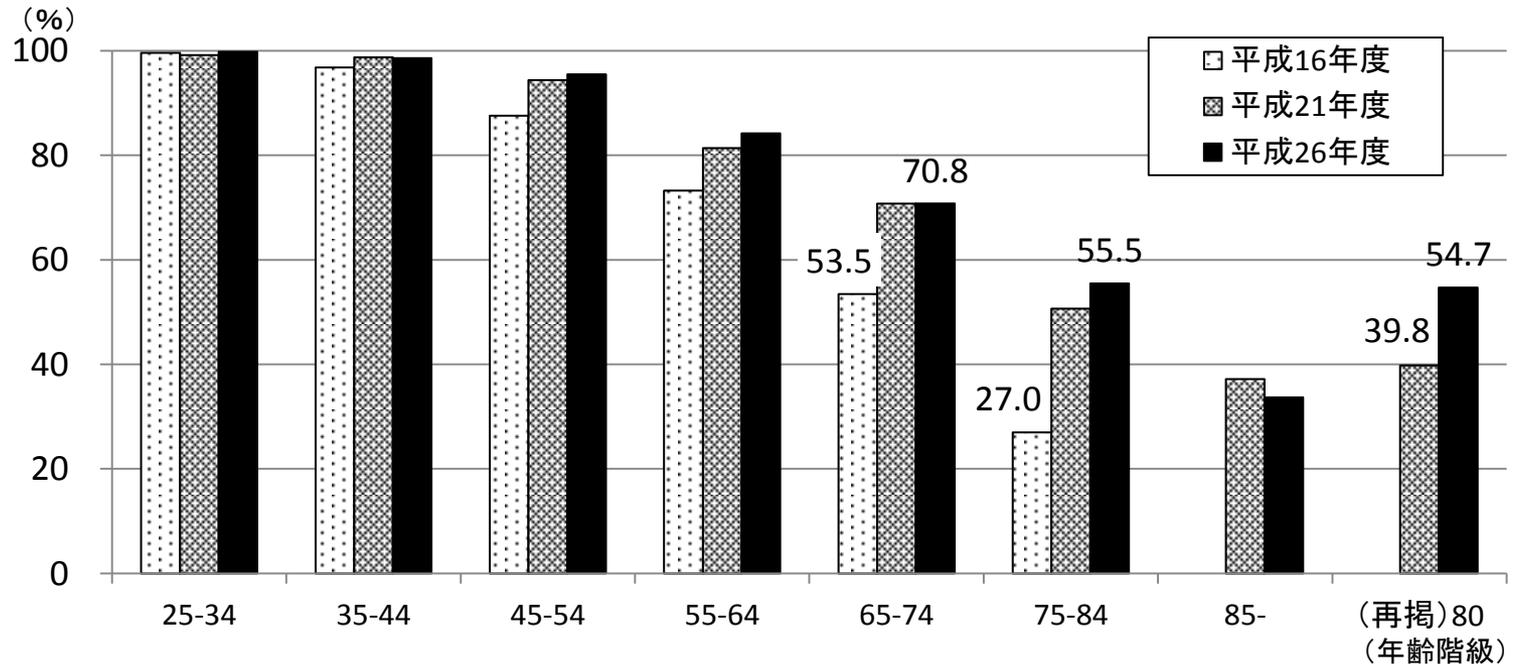


高齢期における歯科保健対策

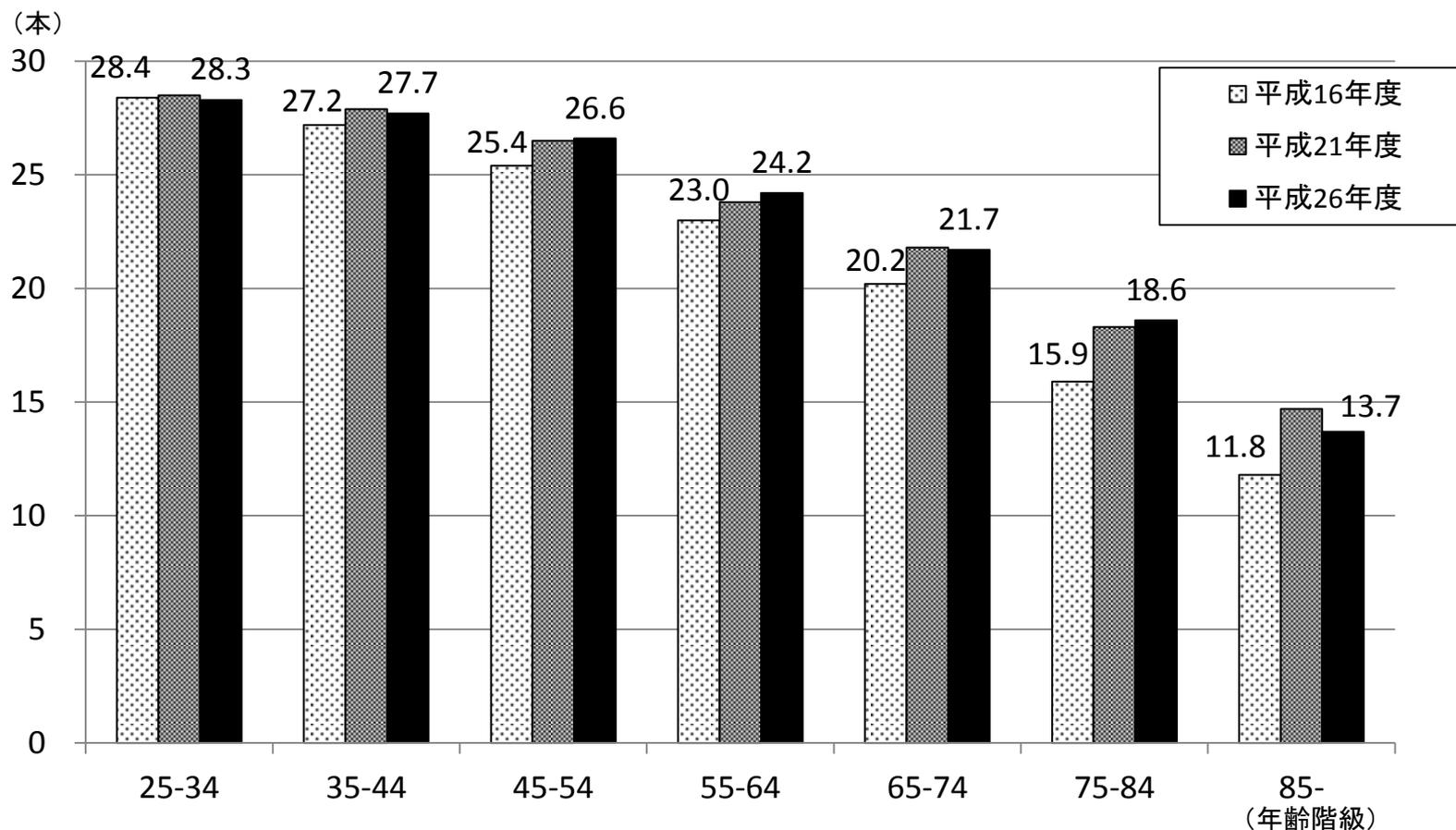
高齢者の口腔内の状況(現在歯数20本以上の者の割合)

平成16年度からの推移をみると、現在歯数20本以上の者の割合は、25歳～44歳の年齢階級では均衡しているが、45～84歳で増加傾向にある。特に、65歳～74歳では17.3ポイント、75歳～84歳では28.5ポイント増加した。また、平成21年度と平成26年度で比較すると、8020達成者の割合は14.9ポイント増加した。



高齢者の口腔内の状況(一人平均現在歯数)

一人平均現在歯数を平成16年度と平成26年度を比較すると、65～74歳で1.5歯、75～84歳で2.7歯増加しており、増加傾向が顕著である。

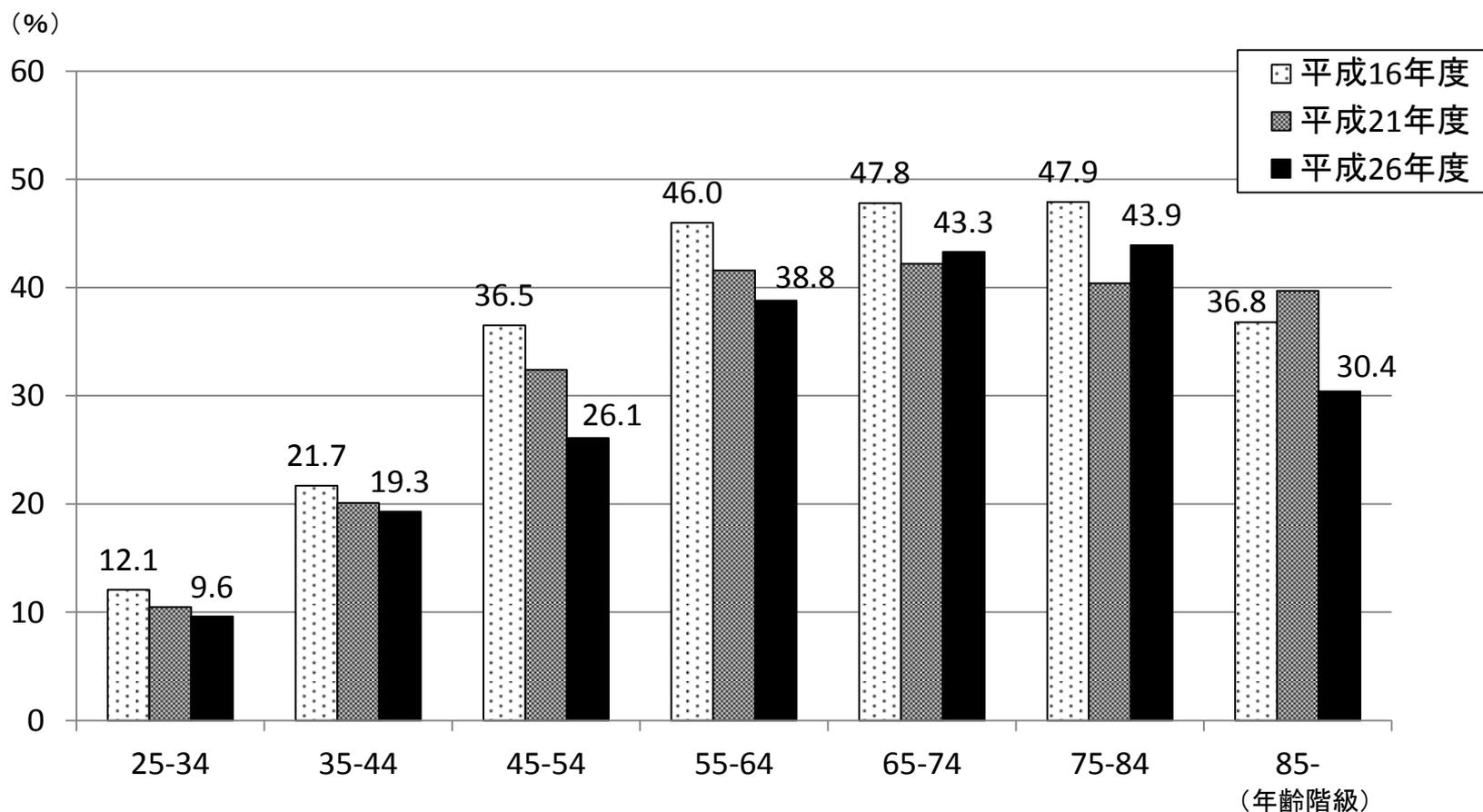


資料:東京都歯科保健目標達成度調査報告書(平成26年度)

高齢者の口腔内の状況(重度歯周病のある者の割合)

重度歯周病(ポケット5mm以上)である者の割合を、平成16年度と平成26年度と比較すると、どの世代においても減少しており、45歳～54歳では10.4ポイント、55歳～64歳では7.2ポイント減少している。

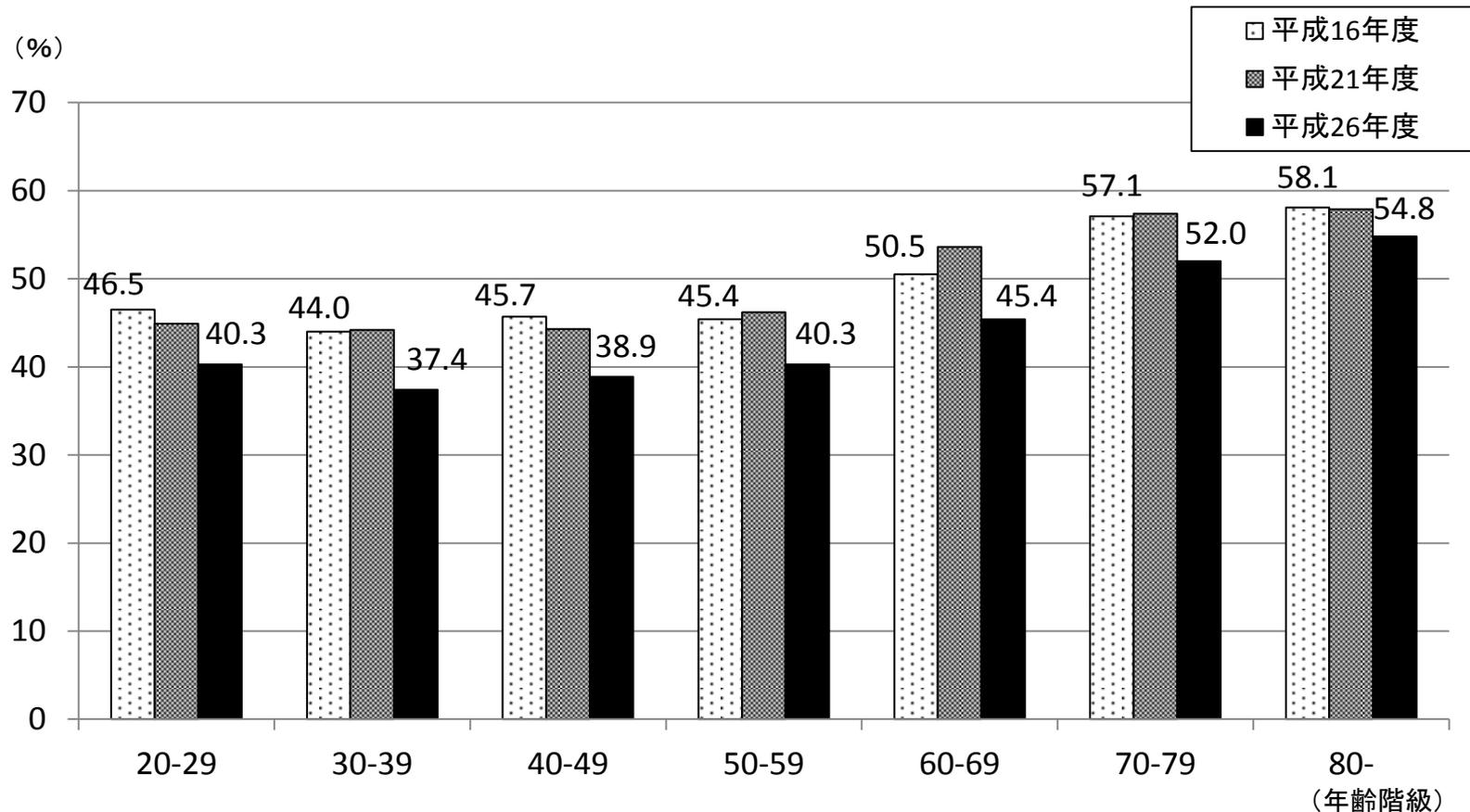
65歳～84歳では、重度歯周病である割合が4割以上となっている。



高齢者の歯科保健意識(口腔の満足度)

「歯・口や入れ歯の状態にほぼ満足している」と回答した者の割合は、平成16年度と平成26年度で比較すると、どの世代においても減少傾向にある。

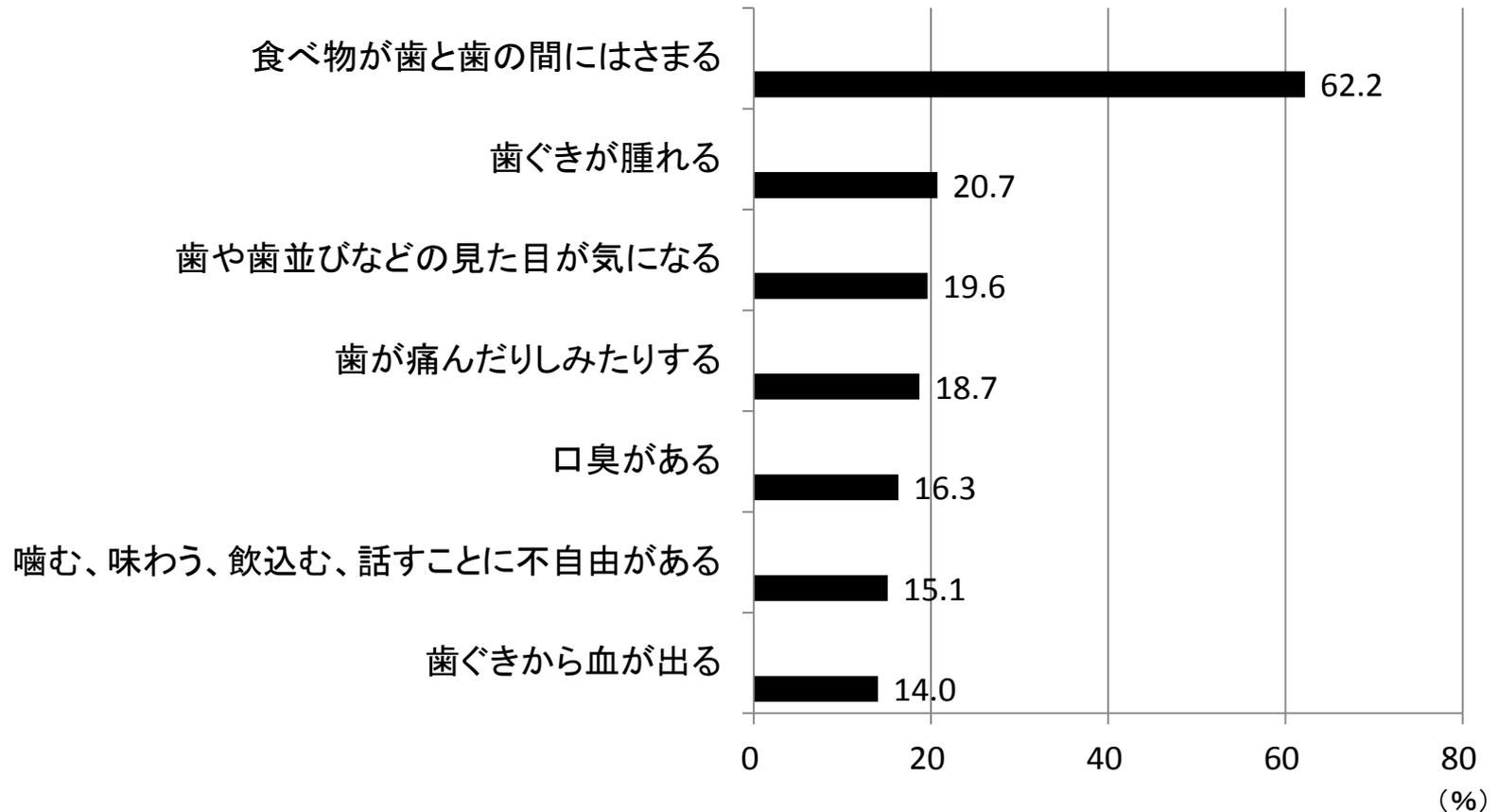
年齢階級が高くなるにつれて「ほぼ満足している」と回答した者の割合は増加する傾向にあり、70歳以上では、50%を超えている。



資料:東京都歯科保健目標達成度調査報告書(平成26年度)

高齢者の歯科保健意識(不満足の内容)

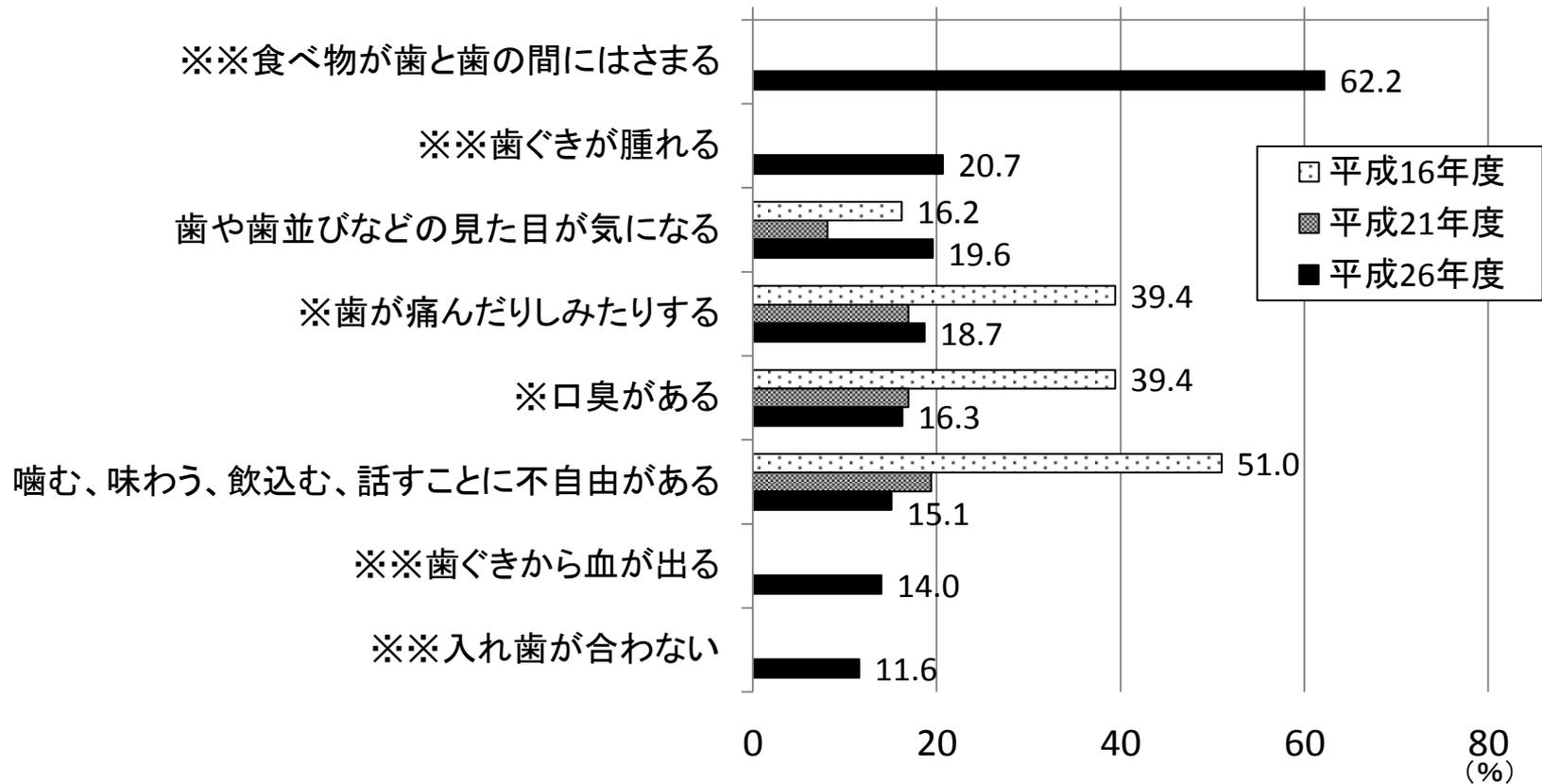
歯や口腔に不満や不自由を感じる内容について、65歳以上の者の回答をみると、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」と回答した者が最も多く、62.2%であり、他の内容の3倍以上であった。また、他の年齢階級と比べても割合が高い。



資料:東京都歯科保健目標達成度調査報告書(平成26年度)

高齢者の歯科保健意識(不満足の内容)年次推移

65歳以上の年代における不満足の内容をみると、平成16年度と平成26年度では、「噛む、味わう、飲込む、話すことに不自由がある」と回答した者の割合の減少が顕著であった。

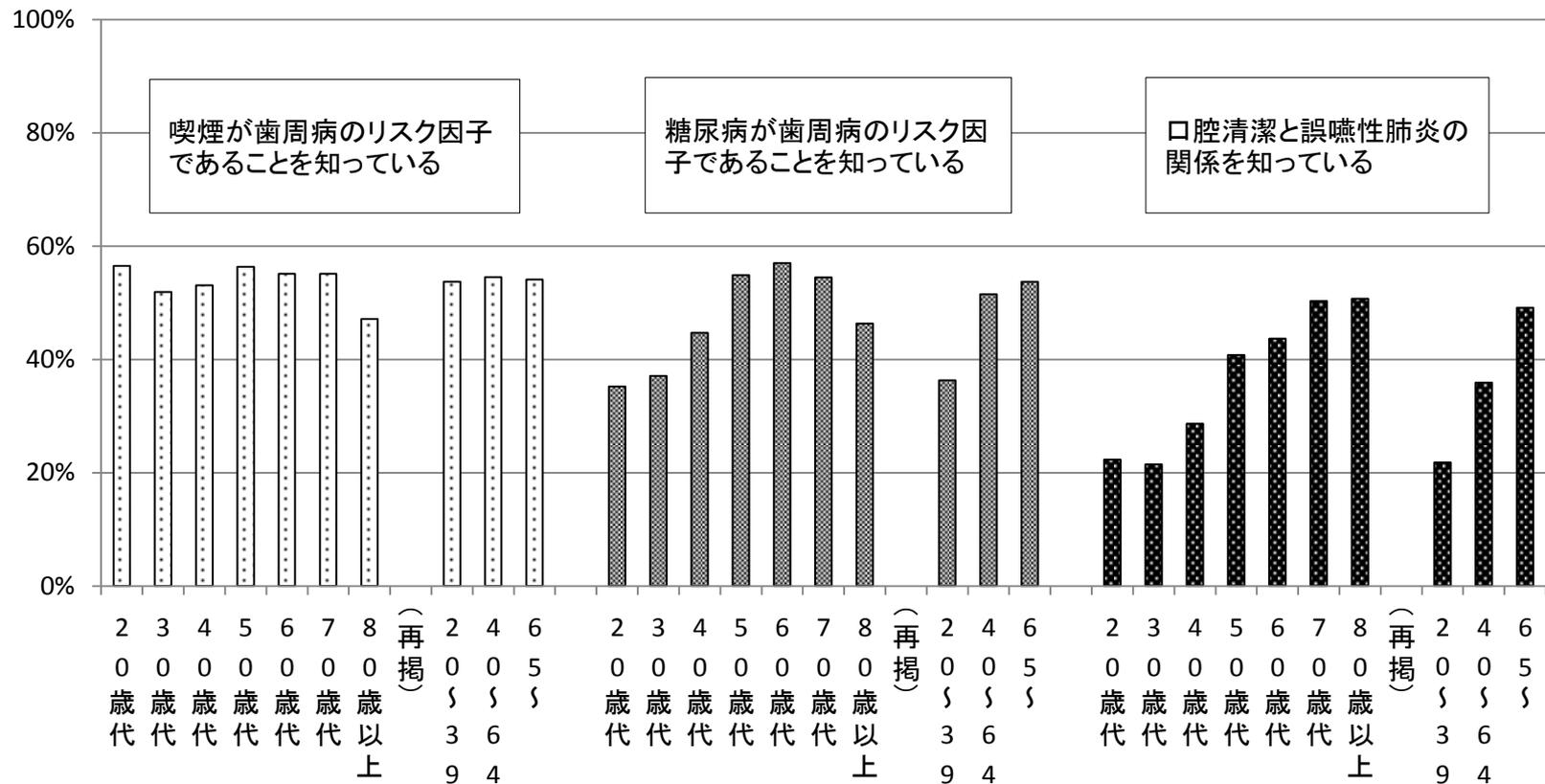


※平成21年度、平成16年度の調査項目は、「痛みや不快感、口臭などが気になる」

※※平成26年度に新たに調査した項目

高齢者の歯科保健意識(知識の普及)

「喫煙が歯周病のリスク因子である」については、20～39歳、40～64歳、65歳以上のいずれも50%以上の認知度であった。「糖尿病が歯周病のリスク因子である」については、50歳代から70歳代での認知度が高く、「口腔清潔と誤嚥性肺炎の関係の認知」については、70歳以上からの認知度が高い。

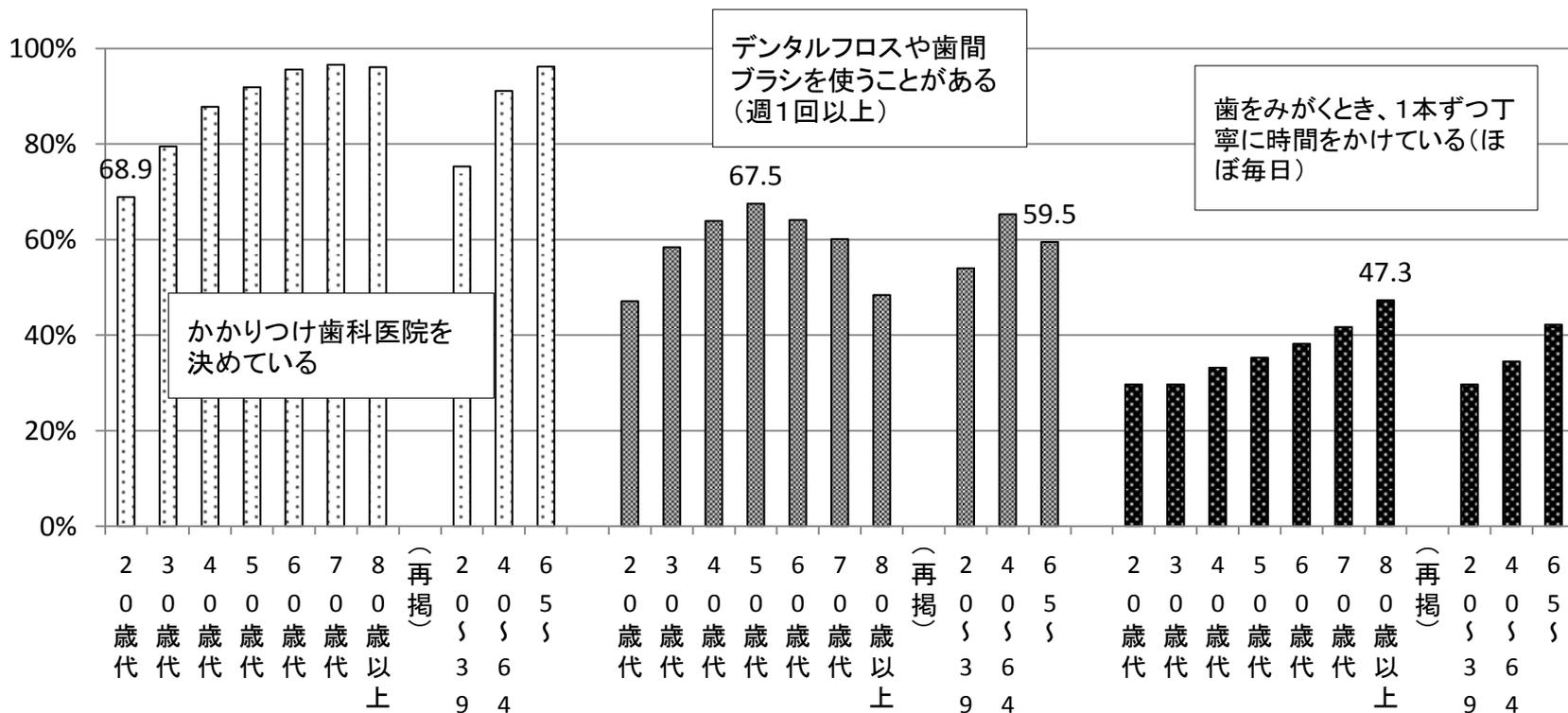


高齢者の歯科保健意識(習慣)

「かかりつけ歯科医を決めている」と回答した者の割合は、20歳代で68.9%であったが、他の世代ではほぼ80%以上であった。

「デンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある(週1回以上)」と回答した者は、50歳代が67.5%で最も多く、その世代をピークに年齢が高くなるにつれ使用率が低くなっている。また、65歳以上の使用率は59.5%であり、6割に満たない。

「ほぼ毎日、1本ずつ丁寧に時間をかけて磨いている」と回答した者の割合は、年齢が高くなるにつれて増加しているが、最も割合の高い80歳以上でも50%に満たない。



高齢者の口腔内及び歯科保健意識に対する東京都の取組 (平成23年度～27年度)

○ 在宅歯科医療研修会の実施

在宅歯科医療に関する知識の習得や在宅医療への関わり方等に関する研修を行い、地域で核となる人材の養成(平成19年度～)

○ 「かかりつけ歯科医と歯の健康づくりに関する調査」の実施

歯科診療所に対し、かかりつけ歯科医としての現在の取組状況及び今後充実が必要な機能について調査(平成23年度)

○ かかりつけ歯科医機能普及啓発の実施

かかりつけ歯科医機能を普及啓発するため、ポスターを作成し、歯科医療機関へ配布(平成24年度)

○ 在宅療養者に対する口腔ケアの推進

在宅療養者に対する口腔ケアの知識を広めるため、日常的な口腔ケアの方法などを紹介する家族向けリーフレットを作成し、歯科医療機関等へ配布(平成24年度)

○ 「はじめての在宅歯科医療」の作成

初めて在宅歯科医療に取り組む歯科医師向けの入門書を作成(平成24年度)

○ 成人歯科健診の支援

市町村が実施する成人歯科健診について、歯周疾患検診以外の年齢での実施に対し、医療保健政策区市町村包括補助事業の中で市町村を支援

高齢者の口腔内及び歯科保健意識に対する現状と課題

- 現在歯数は、平成16年度に比べ、どの世代についても増加している。特に、65歳～84歳までの年齢階級では、増加傾向が顕著である。
- 重度歯周病である者の割合は、平成16年度に比べ、どの世代についても減少しているが、65歳から84歳までの世代では、4割以上が重度歯周病となっている。
- 口腔内の状態に満足している者は、平成16年度に比べ、どの世代についても減少しているが、年齢階級間でみると、年齢階級が高くなるにつれ満足していると回答した者は増加しており、70歳以上では50%を超えている。
- 65歳以上の不満足の内容については、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」と回答した者の割合が62.2%であり、他の内容の3倍以上であった。
- 65歳以上のデンタルフロスや歯間ブラシ等を用いた丁寧な歯磨きの状況は、59.5%であった。



- ◆ ライフステージごとに必要な口腔ケア、知識の効果的な普及啓発
- ◆ 高齢者人口の増加を見据えた高齢期の口腔機能の維持・向上を図る取組